

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX 072-872-2268

ウクライナへ関心を寄せることが最も大事

—日本ウクライナ文化交流協会会長 小野元裕さんの講演より—

7月12日(土)彦根市にあるグリーンピアひこねで行われた小野元裕さんの講演の内容を紹介します。

「ロシアによるウクライナ侵攻も3年半となり、人々の関心が薄れている。多くの犠牲と抑圧された生活が続いているウクライナの人々へ心を寄せることが、今こそ私たちに求められている。それがウクライナ支援につながる。」ということをいろいろなお話を通して訴えておられました。紙面に制約もあるので講演内容を一部抜粋で紹介していきます。そのため、一部メモのようにになっていることはご容赦ください。

以下、講演より

2022年2月に始まった戦争だが、当時は報道も頻繁にされており、日本におけるウクライナへの関心も非常に高く、支援にも熱が入っていた。しかし、3年半後の現在は、その当時の100分の1しか関心がもたれていないと考えている。

「関心領域」という映画がある。第二次世界大戦のナチスドイツが作ったアウシュビッツの強制収容所の所長家族が、収容所に隣接された住居に暮らし、収容所からの音や煙にも「関心」を寄せずに幸せいばいな家族生活を送るという映画だ。壁一つ隔てた場所は地獄そのものの世界だが、この家族は上流階級の生活を楽しんでいる世界が描かれた映画。言いたいのは、人は「関心」をもたないことで、どんなことも反応せずにおれる。無関心であることで、どんなことがあっても「自分だけ」は平穏に暮らしていくということだ。人は、自分のことだけを考えるとふだん大事に思っている人への思いやりだとか助け合うといった感情を失っていく。自分の「心が崩壊」していく。心がブラックボックス化していく。

とにかく大事なことは地域社会のベースの考えとして、人への関心の窓を少しでもいいので広げていくことだ。

2014年にロシアがクリミア半島を武力で併合した。元々ロシアは、ウクライナ全土を自分たちのものにする考え。プーチン大統領は、ロシア、ウクライナ、ベラルーシと三国を併せて新ソ連をつくりたいと考えている。ロシアは日本の北海道もいずれ自国の領土にしたいと考えている。プーチンの頭の中には再編成の地図ができています。日本で今、「自分たちには関係がない」と思っている、この侵攻に無関心でいると、いずれ自分たちに降りかかる。ウクライナ侵攻が始まると、ロシアは、ウクライナの子どもたち2万人をロシアに連れ去り、ロシア人として育て、ウクライナに攻め込むように教育している。戦地では、虐待やレイプも毎日のように起こっている。

日本にもウクライナから約2000人の人たちが日本に避難^{ひなん}してきているが、ウクライナにとどまっている小野さんの友人のウクライナ人たちに聞くと、

・爆撃^{ばくげき}で多くの命が失われ、多くの建物も破壊され、生き残っている人々の暖房施設も破壊された。ウクライナを暖めてほしい。

・ウクライナ国内に避難所を作してほしい。

・ウクライナの人たちが望む支援をしてほしい。「したい支援」ではなく、「してほしい支援」が大切。

例えば、日本から使い捨てカイロを送るとカイロ自体は安くても送料が3万円かかる。ドローンによる爆撃で周囲の人々が死んでいく。若者の中には「どうせ死ぬんだから勉強する気なんてない。」と学習^{いよく}意欲を失う者も多い。西ウクライナの山の中に避難所を設けた。そこは山の中なのでミサイル攻撃はない。多くのスタッフの力があってできた。子ども、女性、負傷者などが避難している。そこにある湖でニジマス釣り、フィッシングセラピーもでき、小川もあり、森林浴もできる。多くの人のリフレッシュの場となっている。人は人によって互いに支え合う。人同士のぬくもりがとても大事。100の支援は無理でも、0を1にする支援はできる。

ウクライナのリビウには世界遺産が多くある。歴史的建造物が今、爆撃され、破壊されている。ノルウェーの資金で修復されつつある。伝統的な家も修復が考えられている。2004年中越^{ちゅうえつ}地震、新潟県の多くの村は廃村となったが、無形文化財「牛の角つき」のある山越村は復興された。私はウクライナも文化が底辺にあれば復興できると考えている。「支援をする」ということだけだと、その支援が終わると互いの関係が終わってしまうが、文化交流は終わらない。本当の復興はウクライナに昔からあった文化を取り戻すことまで考える必要がある。根底を流れる考えとして、日本はウクライナのことを知りたい、ウクライナも日本のことを知りたい。支援する・してもらうの上下関係ではなく、文化の横の関係。これが大事。互いの文化を知り合う、つまり交流することがとても大事。お互いを大切に作る仲間の関係が世界中に広がると戦争はなくなる。これが、私がこの活動を長年やってきてたどり着いた考えた。

講演後に小野さんにインタビューをしました。その内容です。

・日本に来ているウクライナの避難者たちは3年経つと金銭的支援が打ち切られる。日本でいろいろな仕事をして、生計を立てている人もいるが、小野さんの友人のウクライナ人は一人も日本に来ていない。ウクライナには軍事的な後方支援も含め、様々な仕事がある。

・そもそも、ロシア語ではウクライナは「^{へんきょう}辺境」(中央から離れた場所。地方)の意味。ウクライナ語では「土地」「大地」という意味。そこから考えの違いも出てきている。

・あまり知られていないが、ウクライナは、侵攻が始まってすぐに国内の障がい者をドイツに移動させている。

・「どうして、小野さんは、戦地であるウクライナに命も惜しまず、何度も何度も支援や交流に出向かれるのですか。」の問いに、「家族だからです。あなたの家に強盗が入って何もせずにおられますか。あなたの家族がいきなり来た人に暴力を受けていて、じっとしていられますか。私にとってウクライナの人々は家族同様です。だから行くのです。」

講演を聞き、インタビューを終えて

インタビュー最後の「家族だから戦地にも支援に行くのです。」の言葉どおり、小野さんのウクライナへの本気で支援するという気概が常に感じられる時間となりました。ウクライナのことを知ること、忘れないことが支援につながるといふ言葉を肝^{きも}に銘^{めい}じていきたいと思います。(レポーター:がんちゃん)



小野元裕さん

親と子で平和を考える集い

配給会社に勤務していた粉川なつみさんがウクライナを応援したいと考え、退職し、Elles Films(株)(エルフィルムズ)を設立。

エルフィルムズ ホームページより、あらすじなど ⇒



日時：2025年9月27日(土) 午後1時開演予定
場所：大東市立市民会館キラリエホール2 定員：150名
※同時開催：絵画展(キラリエホール1)



© 2018, SSVG EAST FUND INVESTMENT LIMITED
© 2018, "ANIMAGRAB" LTD
© 2018, Ukrainian State Film Agency
© 『ストールンプリンセス：キエウの王女とルスラン』製作委員会

日 々 雑 感

「態度価値」～今、仕事を辞めたいというあなたへ

最近、再び手に取った本がある。

かつて、仕事の悩みの中で、「辞めたい」と思っていたある時期に、この本と出会って思いとどまった。現在、東京大学の教授である福島智(さとし)さんの著書『^{ちよしよ}ぼくの命は言葉とともにある』(写真)で、生きる上で大切なことを教えてもらった。

1962年生まれの福島さんは9歳で失明し、18歳で聴力を失った。ヘレン・ケラーが有名だが、目が見えず、耳も聞こえなくなる(「^{もう}盲ろう」という)中で、何を考え、どのように生きてきたのか、福島さんは言葉を^{つむ}紡いでいる。

とくに自分が心動かされたのは、「態度価値」という考えだ。

これは、福島さん自身が影響を受けた、アウシュビッツ強制収容所で生き延びたオーストリアの精神医学者、ヴィクトール・フランクルの考えだ。

強制収容所での^{きょくげんじょうたい}極限状態の中であって、何かを^{そうぞう}創造することや体験する自由が奪われた中で、人間として生きる意味や価値はあるのか。フランクルはこの問いに対して、収容者の中に通りすがりに思いやりのある言葉をかけたり、なけなしのパンを^{ゆず}譲ったりしていた人たちがいたことを挙げ、「たった一つ、与えられた環境でいかにふるまうかという人間としての自由だけは奪えない」とした。さらに、それを「態度価値」として、創造する価値や体験する価値より上に位置づけた。

福島さんは自身の^{きょうぐう}境遇に重ねて、この考えを受け止め、生きる希望を見出した。

当時の自分は福島さんのような極限状態にいるというわけではなかったが、可能性がゼロではないのなら、職場が少しでも良くなるよう行動することもできるのではとの思いに至った。その態度にこそ意味や価値があると。

「態度価値」。福島さんが教えてくれたこの考えは今も自分を励ましてくれている。

(レポーター かわかず)

『ぼくの命は言葉とともにある』(致知出版社)



地域集会へのお誘い



今年度のテーマは、「認知症」です。

市内各自治区と、ぬくもりネットだいとう（人権啓発ネットワーク大東）との共催で、毎年度「地域集会」を開催しています。ご近所さんが集まって啓発ビデオを通して感想や意見交換をしながら、人権の大切さを学び合います。

今年度は、「母のさがしもの～認知症と共に生きる～」を鑑賞します。

認知症は、誰でも身近に直面するテーマであり、今現在も悩んでおられる方もいらっしゃるでしょう。私自身も、認知症を患う母との関係で、（どう接すればよいのだろうか？）と思い悩んだことがありました。認知症への理解と、かかわりの“コツ”のようなものを学び、ずいぶん楽になり、良い関係で最期を迎えることができました。

皆さんも、「地域集会」にお気軽にご参加くださり、一緒に考えてみませんか。

（レポーター：あき）

地域集会開催日程は
こちらから確認できます！

（大東市ホームページ
2025年度 地域集会について）



★ 会員募集

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
会費等はありません。

★ ヒューマンライター募集

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の
取材をしていただける方（ヒューマンライター）を募集します。

ぬくもりネットだいとう
マスコットキャラクター



はぴくる

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願ひします。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所（市民生活部 人権室内）

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL：072-870-0441

FAX：072-872-2268

Facebook(フェイスブック)

人権啓発ネットワーク大東の活動がみなさんに届くよう、Facebook
ページを開設しました！ぜひ、フォローお願いします！

（Facebookで「人権啓発ネットワーク大東」を検索！⇒）

